

## 第5回北九州市学校規模適正化の進め方検討会議事録（要旨）

- 1 日時 令和6年1月26日（金）10時00分～10時40分
- 2 場所 小倉北区役所東棟8階 811会議室
- 3 出席した者（構成員）の氏名  
南 博、山本 健太郎、錦戸 千晶、松井 清記、岩谷かおり、三浦 隆史、  
吉田 一憲
- 4 傍聴人 1名
- 5 会議経過（発言内容）  
(1) 検討会意見のまとめ

事務局より議事資料に基づき、説明

（座長）

「検討会の意見のまとめ」の資料、「進め方の改訂」のたたき台を修正した資料ともに、前回まで皆様からいただいたご意見を踏まえ、特に前回のご意見を元に修正・加筆した部分をご説明いただいたが、反映が漏れているご意見、修正点についてのご質問、またもう少しここを記述した方がいいといったご意見など、どの部分でも結構なので、ご意見いただければと思う。

（A構成員）

ある地域の話であるが、Aが大きな小学校、Bが少し小さな小学校で、場所的には、Aはどちらかといえば山側で、Bはどちらかといえば住宅地にある。Aに統合しようという話が出て、その地区の連合会長は、「Aは崖崩れ等の心配があるため、子どもたちのためにも、Bのほうにしてもらいたいと反対しているが、あまり意見を聞いてもらえない」と話していた。

（事務局）

現時点では、具体的に学校の統合の話は進めておらず、どこの地域にも、市から適正化の話をしていないので、具体的なところは、少しわかりかねる。

（A構成員）

私も少し聞いた話なので、現実に動いているのではなく、話だけかもしれないが、やはり地域の方が心配するような統合にならないようにしていただきたい。子どもの安全のために、規模が小さくても安全な学校のほうに持っていくという考え方も大事で、将来さらに適正化の話が出てくると思うので、地域の方には、しっかりと説明していただきたい。

（事務局）

全体的な考え方として、しっかりと地域の皆さんにご説明し、ご理解して

いただいたうえで、これからも丁寧に進めていきたい。

(B 構成員)

たたき台の14ページ、パターン①の「2 コミュニティ・スクール等で話し合い」について、コミュニティ・スクールというのは学校運営協議会を設置している学校を表すと私は認識しているが、そうなると、学校等で話し合いをするということか。以前の検討会の中で、学校運営協議会で、学校以外の方々と一緒に話すというようなニュアンスで説明があったと思う。

(事務局)

イメージとしては、学校運営協議会を想定している。書き方については、工夫させていただきたい。

(座長)

検討会意見のまとめの6ページの防災について、「地震時などは学校が避難所になるということもある」とあるが、法律上の指定避難所はもちろんだが、緊急避難場所という機能があると思う。避難所としてそのあと開設していくかどうかというのは、別の議論だと思うが、少なくとも発災直後、緊急時の避難場所になるのはあり得る話なので、「避難所」を「避難所等」にするなど、少し含みを持たせていただくとよいのかなと思う。

また、検討会意見のまとめの17ページの跡地活用について、「地域のコミュニティにおいて施設がどうあるべきかが大切である」というのは、まさにそのとおりで、その中には先ほどの防災の部分でいうと、災害時の機能もおそらくその「コミュニティにおいて施設がどうあるべきか」という中にも含まれてくると思う。地域におけるコミュニティ施設として、災害時への対応も含めた施設のあり方を考えておくことは重要なのかなと思う。

たたき台の17ページの跡地活用については、「まちづくりの視点」という中に、そういう災害時の対応や防災的な機能が含まれてくると思うので、たたき台はこのままでいいと思う。一方で、検討会意見のまとめの跡地活用のところは、可能であれば、災害時の話も少し入れていただいたほうがよりよいのかなと思う。

(事務局)

緊急避難場所という機能もあるので、ご意見も踏まえて、作業を進めていきたい。

(座長)

基本的には、これまでの議論を事務局には丁寧に拾っていただき、加筆、修正いただいたので、かなり内容が網羅されているのではないかなと思う。追加のご質問、ご意見等がないようなので、検討会意見のまとめとしては、一部検討いただくことはあるが、先ほどご説明をいただいた資料のとおりとさせていただければと思う。事務局には、この検討会の意見をできるだけ踏まえる形で、今後の進め方をまとめていただければと思う。もし今後検討を進めていく中で、大きな修正が発生したときはメール等で各構成員にご確認をいただくということで、構成員の皆様にはご了承いただければと思う。

## (2) その他

事務局より議事資料に基づき、説明

### (C 構成員)

「北九州市の5～14歳人口の将来推計」の資料で、赤線の5～9歳の推計人口がR2年からR12年までは結構下がっており、R12年からR17年で減少率が鈍化して緩やかになるのはどうしてか。

### (事務局)

まだそこまでの分析ができていないが、おそらく出生率などが関係しているのではないかと思う。

### (事務局)

おそらく人口ピラミッドから考えると、やや頭でっかちになっている部分がかかなり少なくなっていく、一方で子どもの数は、出生率がどれだけ伸びるか、そのあたりのトレンドが関係してくるかなと思う。将来推計は、社人研が出しているのので、係数がどのようになっているかもあるかと思う。

また今回は、市全体の将来推計をお示ししたが、区ごとの将来推計で見ると、また地域によって少しトレンドが変わってくるようではある。

### (C 構成員)

これからますます子どもが少なくなってくるが、北九州市は民間企業が多いと思う。働く人の人材確保も大変になってくるが、よりよい教育の充実に向けた財源確保のため、会社からの寄付などができるようなシステムがあればよいと思う。

### (事務局)

企業版ふるさと納税があるが、私の知る限りでは、そのまちに本社があったら対象外となる。例えば、本社は東京にあるが、工場が北九州市内にある場合などが対象となるが、何らかの教育の目的に対しての企業版ふるさと納税という形になるので、どのような形で教育の目的というのを提案できるのかということもある。そのような条件のもと、趣旨にご賛同いただける企業があればできるかもしれない。

あと一般的な話でいくと、教育委員会には独自の「学校応援基金」があり、いろいろな方から寄付いただけるようにしている。このようなことを広くご紹介していきたい。

### (座長)

本日ご欠席の構成員も含め、これまで5回にわたる議論において、構成員の皆様から非常に積極的で、様々な観点から、充実したご意見をいただきました。そういった意味で、いろいろなことが盛り込まれた検討会意見のまとめになっていると思う。構成員の皆様にご礼を申し上げます。事務局におかれては、この意見を踏まえて、今後の北九州市のよりよい教育環境の充実に向けて、より一層、取り組んでいっていただきたい。